



児童のみなさんと、保護者の方へ

【夏休みの図書室について】

今年の夏休みは4日間開いています！

日にち：7月21日（火）、23日（木）、
8月24日（月）、25日（火）

時間：午前9時～11時まで（午後は開いていません）

～おねがい～

- ・図書室に来る時は、お家の人に伝えてから来ましょう。
- ・通学路を通して、北門（給食室の横）から入りましょう。
（他の門は閉まっています）
- ・通学する時は、ぼうしをかぶってきてください。
- ・上ぐつを忘れずに持ってきてください。
- ・暑い日が続くので、水とうを持って来てください。図書室の中でお茶を飲んでもらって良いです。本がよごれないように気をつけて飲みましょう。
- ・図書室では、本の貸出、返きゃく、予約、読書ができます。貸出できるのは4冊までです。
- ・夏休み前と、7月23日（木）までに借りた本は、9月4日（金）までに返ししょう。
- ・8月24日（月）と、8月25日（火）に借りた本は、2週間後までに返ししょう。



八幡市立八幡小学校 図書室

本のおたより

（4年生～6年生用）



令和8年7月6日夏号



読書感想文にいかがでしょうか？



もうすぐ夏休みが始まりますね。楽しみなことも多いけれど…夏休みの宿題の読書感想文は苦手な人も多いのではないのでしょうか？そこで、今回の図書室だよりでは、読書感想文を書きやすい本をしょうかいしたいと思います。ぜひ、自分の好きな本を見つけて借りてみてくださいね。そして、自分の感じたことや、考えたことを、文章で表現してみましょう。書いてみて初めて自分の気持ちに気づくかもしれませんよ。

じつわ
実話

『星空を届けたい 出張プラネタリウム、はじめました！』

たかはし まり こ 高橋真理子/文 早川 よし お 早川世詩男/絵 ほるぷ 出版



きっと、今夜空を見上げたくになります

作者の高橋真理子さんは、科学館のプラネタリウムで、星や、星座、宇宙のみ力を伝える仕事をしていましたが、自分の子どもが入院したことをきっかけに、病院で入院している子ども達や、外出できない人のために出張プラネタリウムを始めました。空気を入れるとふくらむテントのようなプラネタリウムと、パソコン、プロジェクターがあれば、星空を映し出すことができ、満点の星空を見た子ども達は、そのしゅんかんに「うわあ!!」と、かん声を上げるのだそうです。

ところで、みなさんは、だれもが「星のかけら」なのだと知っていますか？私達の体をつくっている炭素、酸素、鉄などの成分は、全て星からつくられたものなのです。なので、自分の体が、星から生まれたと思うとすてきですね。

だれもが「星に願い」をかけられますようにと、全国を飛び回る高橋さんの出張プラネタリウム誕生までのいきさつが書かれている本当にあったお話です。

物語『まだまだここから』 宇佐美牧子/作 酒井以/絵 ポプラ社



がんばっても結果が出ないこともありますね

小学4年生の蓮は、運動は得意ではないが、水泳だけは得意な男の子。ある日、通っているスイミングスクールのコーチに、水泳選手を目指す特訓生クラスに入るための検定を受けてみないかとさそわれます。蓮は、検定までの3ヵ月間、毎日自主練習をし、努力しました。しかし、検定の結果は不合格。今までの努力がむだになってしまったような気持ちになりました。一方、弟の凜は、特訓生に選ばれ、両親がうれしそうにしている姿を見て、蓮は余計に胸が痛みます。

そんな時に、市民プールで、「すいすい川原クラブ」というチラシを見つけます。コーチは、高校時代に平泳ぎでインターハイ3位の実績を持つ春さん。蓮は、春さんと、同学年の男子2人と出会い、成長していきます…。

結果が出なくても、努力を続ける大切さを教えてくれて、がんばっている人の背中をおしてくれる今年度の中学年読書感想文課題図書です。

物語『アイとムリ』 デイヴ・エガース/作 代田亜香子/訳 小学館

動物のきずなを感じられる物語

光の速さで走ることのできる犬のヨハネス。広い公園で、のら犬として自由に生きるヨハネスには、ある役割があたえられていました。それは、アイ(目)として、公園に異常がないか観察して、何かあればバランスの守護者であるバイソンに知らせることです。例えば、アライグマが暮らしている森に新しい道が通った時には、バイソンに知らせて、アライグマ達の移動する場所を決めました。このように、特に、人間と動物のバランスが、公園内でくずれないように保っているのです。

ヨハネスは、ある出来事を経験してから、自由であることの幸せを感じ、そこから大たんな計画を思いつきます。それは、さくの中にいるバイソンを外に連れ出し、自由にするという計画です。様々な動物達の力を借りて、計画を実行するのですが、はたしてうまくいくのでしょうか？

後半、一気に加速する物語の展開に目がはなせない1冊です。



物語『リヒト！』 イノウエミホコ/作 文研出版



人と向き合うとは、どういうことでしょうか？

小学校6年生の理人は、おばあちゃんの節さんが亡くなる前に、ドイツに住むふたごの姉であるレイさんにとどけてほしいと、ふうとうをあずかります。節さんは、ウソをつかず、強く、正しい人で、理人は節さんを尊敬し、節さんも理人をかわいがってくれていました。

ふうとうをレイさんにわたす目的を果たすために、理人は、自由ほん放な親せきのマサムネとドイツに向かいます。真面目で、計画性のある理人は、正反対な性格のマサムネのことが苦手です。しかし、海外の旅先では、計画を立てても、計画通りに進まないことも多く、マサムネに助けられる場面もありました。

また、理人は、人に興味を持てず、表に出ている姿がその人の全てだと考えていましたが、きらびやかな光あふれるクリスマスマーケットで異国の文化にふれながら、レイさんに会い、人の内面にも興味を持つようになります…。

一人の少年の成長をえがく今年度高学年読書感想文課題図書です。

物語『ポジション！』 たかだ ゆ き こ 高田由紀子/作 岩崎書店

自分のポジションを見つけたバスケットチームの少年達の成長物語

末広サンライズというミニバスケットクラブに、小学校6年生になってから、背が高いからという理由だけでさそわれた芽吹。しかし、芽吹は、運動が苦手で、気が弱く、緊張しやすいので、チームの足を引っ張ってしまいます。

芽吹が自信を失っている時に、昔仲良くしてもらっていた4才年上の貴島ルイと出会います。ルイは、生まれつき足に障がいがあり、車イスで生活していましたが、現在は、千葉ウィングスという車イスバスケのチームに入っているのだと言います。ルイにさそわれて、車イスバスケの試合を見たり、ルイの努力する姿を見たりしているうちに、勇気づけられ、芽吹は、チームの役に立てるようにと、練習に身が入ります。

チームメンバーそれぞれが、かっとうしながらも、相手を思いやり、成長していく物語で、今年度高学年読書感想文課題図書です。

